

あいち農産物生産流通レポート

令和2年2月号

	ページ
◎ 情報サロン ・ 地元農産物を活用した和食調理講習会を開催しました	(食育消費流通課) 1
◎ 地域トピックス ・ 「海部地域食育推進ボランティア研修交流会」の開催	(海部農林水産事務所) 2
◎ 東日本情報 ・ お客様に花を買ってもらうには？	(東京事務所) 3
◎ 西日本情報 ・ 「夕焼け姫」のブランド化協議会の取組について ・ 2019年愛知県農業総合試験場の10大成果	(園芸農産課) 4 (農業総合試験場) 5
◎ フラワーページ ・ 花の飾り方いろいろ	(東京事務所) 7
◎ 青果 ・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場) ・ 名古屋・東京市場における青果物の2月の見通し	9 10
◎ 花き ・ 切花・鉢花の2月の見通し(県内市場)	22

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課 (052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ (03)-5492-5400

平成29年4月号から、「全国における主要農産物の輸出入実績」、「関連指数」のページはなくなりました。それぞれの情報につきましては、

【輸出入実績】

農林水産省ホームページ内「農林水産物輸出入統計」
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kokusai/index.html>

【消費者物価指数】

全 国：総務省統計局ホームページ内「消費者物価指数月報」
<http://www.stat.go.jp/data/cpi/>
名古屋：愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」
<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/toukei/bukka.html>

【農業物価指数】

農林水産省大臣官房統計部「農業物価統計調査」
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noubukka/>

【名古屋市小売価格】

総務省統計局「小売物価統計調査」
http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?_toGL08020101_

を御覧ください。

地元農産物を活用した和食調理講習会を開催しました

食育消費流通課

2013年12月に、「自然を尊ぶ」という日本人の気質に基づいた「食」に関する「習わし」が「和食；日本人の伝統的な食文化」と題して、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

愛知県が2016年3月に作成した、第3次愛知県食育推進計画「あいち食育いきいきプラン2020」においても、「日本型食生活の推進、郷土料理等地域の食文化の継承」に関する様々な取組を推進しています。

そこで、「和食」やそれを支えるあいちの農産物、伝統調味料の良さを感じ、次世代への継承を考えるきっかけとするため、2020年1月29日（水）に刈谷市内で和食調理講習会「和食の基本『だし』と、愛知の食材や発酵調味料を学び、和食文化を継承しよう！」を開催しました。碧南市の日本料理店「一灯」の長田料理長を講師としてお招きし、和食の調理実習と地元食材に関する講話をいただきました。

当日は、食育や和食に関心の高い県民、食生活改善推進員、教育関係者等29名の方に参加いただきました。

1 調理実習

「『だし』と愛知の食材を活かした和食」

かつお、昆布、椎茸を使った「だし」やたまり醤油、酢、みりん等、本県で生産している発酵調味料を活かした和食料理を調理しました。

<メニュー>

- 鶏肉と根菜の煮物
- 五色なます
- ちりめんじゃことふきのご飯
- 八丁味噌の赤だし
- 豆乳ムース



調理実習の様子



できあがった料理

2 講話「あいちの伝統野菜と発酵調味料」

調理実習で使用した「ふき」を始めとする愛知の伝統野菜や、本県で生産している多種多様な発酵調味料の歴史や特長について紹介しました。

その後は、今回調理したレシピのポイント、郷土料理の作り方や料理の盛り付けのコツ等について質疑応答が活発に行われ、あっという間に閉会の時間となりました。

終了後のアンケートでは、ほぼ全ての方から「参考になった。」と回答があり、「今回作ったメニューを地域の料理教室で活かしたい。」「地元の食材や調味料を進んで利用していきたい。」など、多くの声が寄せられました。

この調理講習会で学んだことを、家庭や地域等において広く受講者に発信いただき、和食文化や地元食材の魅力が継承されていくことを期待します。

「海部地域食育推進ボランティア研修交流会」の開催

海部農林水産事務所

令和2年1月21日（火）に海部総合庁舎401会議室において、「令和元年度海部地域食育推進ボランティア研修交流会」を開催しました。

この研修交流会は、海部地域の食育推進ボランティアが地域の実情に応じた取組を行い、活動の場を広げるため、食育に関する知識や情報の提供、またボランティア同士や関係者との交流を図ることを目的に毎年開催しています。今年度は「食品ロス削減」をテーマに、参加者33名で講義とグループワークを行いました。

1 講義「食品ロス削減について」

名古屋学芸大学管理栄養学部公衆栄養学研究室准教授の川崎和彦氏による「食糧自給率の現状と課題」と「食品ロス」の講義が行われました。

参加者は都道府県別食料自給率で愛知県が42位と低いことに驚くとともに、食品ロスの問題点、家庭で出来る対策や企業の取組等の身近で興味深い内容に、熱心に講義を聞く姿が見られました。



川崎准教授による講義



参加者によるグループワーク

2 海部地域食育推進ボランティア交流会

名古屋学芸大学の公衆栄養学研究室学生をファシリテーター（進行役）とし、川崎准教授の指導のもと、海部地域食育推進ボランティアと行政関係者によるグループワークを行いました。テーマは「あなたがロスしてしまう食品、ベスト3」と「食品ロスを減らすための工夫」で、和気あいあいとした雰囲気の中で活発に意見交換を行い、最後はグループの意見をまとめて代表者が発表を行いました。

研修後のアンケートでは、「よく参考になった」54%と「参考になった」46%と肯定的な意見が多く、有意義な研修となりました。

食品ロス削減について学び、海部地域食育推進ボランティアと行政関係者が意見を交わしながら交流し、地域における食育活動の実践へつなげました。

お客様に花を買ってもらうには？

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

令和2年1月14日（火）に、一般社団法人日本フローラルマーケティング協会（以下、JFMA）がセミナーを開催し、「お客様にお花を買ってもらうには？」をテーマに講演やパネルディスカッションが行われました。心理学及びマーケティングの専門家や、生花店社員を交えての議論を紹介します。

1 セミナーのテーマと講演者

JFMAは、種苗業者、生産者、市場流通関係者、資材メーカー、小売店等の花き業界関係者により構成され、花きの消費拡大を目的に活動をしています（表1）。その中で各種セミナーを開催しており、今回は「お客様にお花を買ってもらうには？～無意識にその気にさせるメカニズム～」がテーマでした。

セミナーではまず、早稲田大学理工学術院の渡邊克巳教授から、心理学的・認知科学的にみた「好み」の形成について講演がなされました（表2）。その後、広告代理店「博報堂」の買物研究所所長 高荷力氏、生花店「青山フラワーマーケット」社員の大草久美子氏を交え、JFMA会長の小川孔輔 法政大学経営大学院教授をコーディネーターにパネルディスカッションが行われました。

2 花を買ってもらうには？

パネルディスカッションで出た意見をいくつかまとめると、「インターネットで誰もが簡単に情報が探せるようになった今、逆に“秘密感”というものが重要になる。表に出さないことがプラスになるのではないか。」「購買の選択肢が多くなりすぎたため、その選択を人に任せたいと思う人が増えているように感じる。売り手は客の選択肢をあえて狭めたり、“あたかも自分で選んだような感覚”を持たせることが重要ではないか。」「花があることで、自分が、生活が、他人がどのように変わるかを訴えることが重要。花の良さを伝えるだけでは足りない。」といったものがありました。

行政も含めて、花き関係者がこうした知見を活用することにより、今後の花き消費の増加につながることを期待されます。

表1 JFMAの事業内容

1. マーケティングリサーチと市場情報の提供
2. 花業界のための人材育成と教育研修
3. 花の販売技術と経営のコンサルティング
4. 鮮度保持など、花の規格や商品評価などの基準設定

※JFMAのウェブページから抜粋

表2 渡邊氏が紹介した知見

- 人は好き・嫌いを判断していないと思っているときでも、無意識のうちに判断している
- 好みは、新規性と親近性（懐かしさなど）の両方の影響を受けていると考えられる
- 自分の意思で好きなものを選んで買ったつもりでも、それを好きな理由や選んだ意図は、選択の後に後付けされたものである可能性がある



パネルディスカッション

「夕焼け姫」のブランド化協議会の取組について

園芸農産課

県農業総合試験場が開発したカンキツ新品種「夕焼け姫」は、県内柑橘産地の主要品種である「宮川早生」に比べて、果皮の色が鮮やかな赤橙色で、早く成熟する特徴があり、11月中旬から味わえる愛知県オリジナル品種として期待されています。

本県では、この「夕焼け姫」の知名度を向上させるとともに、品質の良い果実を供給することを目的とし、「夕焼け姫ブランド化チーム（以下、ブランド化チーム）」を2019年6月に設立して、ブランド力向上に取り組んでいます。



左：夕焼け姫

右：宮川早生

1 ブランド化チームの概要について

ブランド化チームでは、「夕焼け姫」の市場価値を高めるため、生産から流通・販売の関係者が一体となってブランド化に取り組んでいます。

(1) 構成員

愛知県（園芸農産課、農業経営課、農業総合試験場、農林水産事務所）、JA、JAあいち経済連

(2) 所掌

- ア 果実の高品質化に関すること
- イ シンボルマークの作成・使用基準に関すること
- ウ ホームページ等による情報発信に関すること
- エ PR資材の作成・貸出等に関すること
- オ その他、「夕焼け姫」の普及拡大・ブランド化のために必要な事項に関すること

2 協議会の活動内容

(1) 2019年度の活動内容

- ア シンボルマークデザインの検討、決定。
- イ シンボルマークの商標出願。
- ウ シンボルマークの使用基準検討。

(2) 今後の予定

高品質果実の生産に向けた技術資料を作成・配布します。また、2020年産「夕焼け姫」の出荷に向け、PR資材等を作成する予定です。



甘し、太陽の宝石

あいちのみかん

夕焼け姫

夕焼け姫シンボルマーク

2019年愛知県農業総合試験場の10大成果

農業総合試験場

愛知県農業総合試験場では、農業の発展や農家経営の改善のため、新しい品種や高度な栽培技術・飼養技術の開発を行っています。こうした試験研究について、広く県民の皆様にご理解を深めていただくため、農業総合試験場の研究成果の中から、特に優れたものや社会的関心の高いものを各界の選定委員に選んでいただき、2019年の10大成果として公表しましたので紹介します。

1 2019年の10大成果

第1位	糖度が高く良食味なニホンナシ新品種「瑞月」 ^{ずいげつ} （系統名：愛知梨3号）を開発
第2位	豚の新しい凍結受精卵移植方法「追い移植法」を開発
第3位	シマウマ？いえいえシマ「ウシ」です。新たな吸血昆虫対策を開発
第4位	新たな仏花用規格による輪ギク年3.5作体系を確立
第5位	4-5月どり寒玉系キャベツ品種の選定とその栽培技術を開発
第6位	水田畦畔における難防除雑草グリホサート抵抗性ネズミムギの防除法を開発
第7位	愛知の伝統野菜「天狗ナス」の仕立て法を確立
第8位	デジタル画像を利用したてん茶被覆法の判別技術を開発
第9位	落葉、枝の詰まりを軽減した立軸プロペラ式小水力発電装置を開発
第10位	DNAからサビダニ類の発生を簡易に検出する技術を開発

2 選定委員

浅川 晋	名古屋大学大学院生命農学研究科 教授	
伊藤 博康	株式会社CBCテレビ報道局報道部 参事	
平光 佐知子	生活協同組合コープあいち 副理事長	
吉澤 一幸	東海漬物株式会社漬物機能研究所 所長	(敬称略・五十音順)
須田 晃	愛知県農業総合試験場 場長	

3 特徴・傾向

研究成果の中から選定委員が、「実用性」、「新規性」、「社会性」、「普及性」の項目について5段階で評価しました。2019年の10大成果では、生産者の収益向上や省力化、生産物の品質向上につながる新品種や新技術の開発に加え、小水力発電装置の開発など、多岐にわたる研究成果10課題を選定しました。これらのうち、上位3課題を紹介します。

第1位：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構と共同で、早生で良食味なニホンナシ新品種「瑞月」（系統名：愛知梨3号）を開発しました。「瑞月」は、果実の糖度が高く、酸味が少ないことが特徴で、現在の消費者の嗜好に合っています。

第2位：従来の方法よりも効率よく子豚を生産できる豚の新しい凍結受精卵移植方法「追い移植法」を開発しました。この技術は、人工授精により予め代理母豚を妊娠させた後に凍結受精卵を移植する方法で、生産現場での活用が期待できます。

第3位：牛の新たな吸血昆虫対策技術を開発しました。この技術は牛にシマウマ様のシマを描くことで吸血昆虫を忌避するもので、牛のストレスが軽減されることから生産性の改善が期待できます。

4 公表

農業総合試験場の Web ページ (<https://www.pref.aichi.jp/nososi/>) で、10 大成果の詳細がご覧いただけます。

第1位

糖度が高く良食味なニホンナシ新品種「瑞月」（系統名：愛知梨3号）を開発



満開時の様子（花芽の着生が良好）

第2位

豚の新しい凍結受精卵移植方法「追い移植法」を開発



第3位

シマウマ？いえいえシマ「ウシ」です。
新たな吸血昆虫対策を開発



花の飾り方いろいろ

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

1月20日（月）から22日（水）にかけて、千葉市美浜区の幕張メッセで第16回国際フラワー&プランツEXPO（以下、IFE X）が開催されました。IFE Xは、今回よりライフスタイルWeek内で実施され、雑貨やインテリア等が出展される展示会と併せて開催しており、出展者の中には花の飾り方に関する展示を行う企業も見られました。

1 静電気で花びらや葉をくっつける

株式会社クリエイティブテクノロジーが展示していた「ESCLIP」（エスクリップ）は、静電気で紙などを貼り付けることができる掲示板です。

同社は、この製品の新しい用途として花きに着目しました。静電気で生の花びらや葉を貼り付けることができるため、花きを利用した様々なアートが楽しめます。蘭や薔薇など平面のある花びらや葉が貼り付けでき、更に自作したスタンドを使うことで、花そのものの固定も可能です。

この商品は、画鋲や磁石がいらぬという特徴を利用して、既に国際会議場・美術館内のポスターや写真の貼り付け、工場内での行程表を貼る掲示板、福祉施設・幼稚園での絵画製作品の展示ボードなど幅広く利用されています。花き関係では今回が初の出展となりましたが、新たな用途が広がる可能性を感じました。



花や葉が貼り付けられた ESCLIP

2 手軽な袋状の花器

有限会社ショクホーは、プラスチック製で一輪挿しができる袋「花ポケット」を展示していました。

袋の中には栄養剤・抗菌剤の入ったゼリーが充填されており、封を切って花を挿すだけで水替えの手間なく花を飾ることができます。花ポケットは壁に掛けたり吊り下げたりできるので、花瓶ではできない飾り方も楽しめます。

また、花瓶は割れるなどの危険がありますが、花ポケットならそうした問題もないため、小さな子供のいる家庭でも利用できるとのことでした。



花ポケットで飾られた花

今回紹介したクリエイティブテクノロジーは半導体製造装置用部品の開発・製造メーカーであり、ショクホーは製袋加工の会社です。一見花き業界とは関わりの薄そうな企業ですが、こうした展示会を通して新たなアイデアを知るきっかけとなりました。

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下
 わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：ブロッコリー）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)	愛知産	前年の主な他産地 (上位3産地)
元年実績	6, 9 4 9	1, 5 2 5 (2 2 %)	3 7 1	2 5 6	鳥取 (1 7 %) 北海道 (1 6 %) 長野 (1 4 %)
2年見通し	7, 0 0 0	—	3 7 0	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>各産地の生育状況は、暖冬傾向で順調。1月下旬には降雨もあり、2月上旬は潤沢な入荷と安値相場が予想される。一方で、生育がかなり前倒ししているため、早めの切り上がりが見込まれ、後作が追いつかず入荷の切れ間が出る可能性がある。端境の程度によっては、一時的に大幅な入荷減と価格上昇も考えられる。 入荷量と価格はともに前年並の見込み。</p>			<p>各産地ともに同じような品種の作付けが多く、出荷ピークや端境の時期が被ることで、入荷量の波が大きくなっている。九州産地や北海道なども作付けを増やしており、価格の維持と安定した入荷に向け、品種や作型等の検討をお願いしたい。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（品目：ブロッコリー）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)	愛知産	前年の主な他産地 (上位3産地)
元年実績	31, 7 7 5	4, 5 0 5 (1 4 %)	3 8 8	2 7 3	香川 (2 1 %) 北海道 (1 7 %) 熊本 (9 %)
2年見通し	32, 0 0 0	—	3 8 0	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>前年は、30年の不作から一転し、順調な生育で入荷を増やした。入荷の増加は産地が増えていることも大きい。本年は、年末からの暖冬傾向と定期的な雨で各産地とも前進傾向で肥大も良い。1月になり店頭価格も下がっているが、入荷量がそれを上回り、荷動きは鈍化している。消費者に届くまでの日数が伸びる懸念もあり、品質には留意が必要か。2月以降は、寒気が入ると前倒し分が減り込む可能性もある。 入荷量は前年並で、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>			<p>九州産地を中心に「氷詰め」での出荷が増えており、量販との商談において大きなアドバンテージとなっている。愛知産はまだまだ秋冬産地のトップブランドではあるが、これら氷詰め産地に対応していくためにも、契約販売や事前提案での販売など、積極的な販売をお願いしたい。数量や価格のリスクはあるものの、顧客・売場確保のために是非お願いしたい。 また、品質の個人差が年々目立っており、こちらの対応も再度お願いしたい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の2月の見通し

名古屋中央卸売市場

1月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	27年	31,348	227	227	229	愛知 26%	
	28年	32,001	237	239	233	北海道 22%	
	29年	30,542	237	241	224	鹿児島 7%	
	30年	27,777	287	285	294	茨城 6%	
	31年	30,958	212	207	207	静岡 6%	
	5カ年平均	30,525	239	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	30,500	206	—	—		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>愛知と北海道を中心に入荷する。暖冬のため葉菜類を中心に価格が低迷している。果菜類は曇雨天で入荷が落ちつくが、土物類は太物傾向や秋の豊作で安値。全体では安値推移した前年に近い動きとなるか。入荷量は前年並で、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>							
だいこん	27年	1,755	83	92	78	85	静岡 48%
	28年	1,771	79	83	72	88	鹿児島 13%
	29年	1,709	90	90	90	95	徳島 13%
	30年	1,374	180	179	185	183	千葉 9%
	31年	1,765	69	84	67	61	愛知 9%
	5カ年平均	1,675	97	102	94	99	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,700	80	85	80	75	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>静岡を中心に徳島、鹿児島などから入荷する。静岡は昨秋の台風の影響が若干残るとの声もあるが、暖冬傾向もあり、各産地ともに生育は概ね順調。全体では平年並の入荷量となるか。入荷量は前年をやや下回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>							
にんじん	27年	2,055	73	69	75	78	愛知 89%
	28年	1,961	97	107	94	92	長崎 5%
	29年	1,994	138	135	138	141	熊本 3%
	30年	1,611	202	186	210	218	鹿児島 3%
	31年	1,888	85	84	83	89	
	5カ年平均	1,902	116	113	117	120	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,900	120	120	120	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>愛知主体の入荷となる。愛知は暖冬傾向の影響で平年に比べかなり前進している。階級は2L～Lの太物傾向で、順調な入荷が見込まれる。入荷量は前年並で、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

1月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	27年	119,044	246	243	246	249	千葉 17%
	28年	120,492	260	263	260	256	茨城 14%
	29年	117,268	256	254	259	256	愛知 10%
	30年	107,526	314	312	317	312	北海道 10%
	31年	114,138	232	242	230	225	神奈川 7%
	5ヵ年平均	115,694	261	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	118,000	240	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>関東の各産地、愛知などから入荷する。暖冬に加え適度な雨をうけ、露地品目では前進化が目立つ。今後、寒波等による急減も考えられるが、現状では端境もなく順調な入荷が見込まれている。 入荷量と価格はともに前年をやや上回る見込み。</p>							
だいこん	27年	12,073	92	97	85	94	神奈川 56%
	28年	12,215	80	86	69	83	千葉 31%
	29年	11,607	90	87	92	93	鹿児島 5%
	30年	8,925	173	168	178	176	徳島 3%
	31年	9,831	81	93	81	67	静岡 2%
	5ヵ年平均	10,930	100	103	97	100	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	10,000	80	80	85	75	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>神奈川、千葉からの入荷が中心となる。主力の千葉は暖冬により前進傾向。切り上がり早まるものの、次の作が控えており端境なく入荷が続くと見込まれる。寒さが弱く、鍋やおでんなどの需要が伸びず今後の荷動きに不安が残る。 入荷量と価格はともに前年並の見込み。</p>							
にんじん	27年	6,657	85	84	84	88	千葉 79%
	28年	7,166	92	96	90	91	埼玉 9%
	29年	6,243	161	152	162	172	茨城 6%
	30年	6,287	178	179	178	176	鹿児島 3%
	31年	5,935	101	94	107	104	中国 1%
	5ヵ年平均	6,458	122	120	123	125	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	5,800	130	125	125	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>千葉からの入荷が中心となる。主力の千葉は昨秋の台風などの影響から回復しつつあるが、若干数量を減らすか。月後半には入荷量が落ち着くとみられており、価格も上がると見込まれる。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

1月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格	前年主要産地 (%)				
				上旬	中旬	下旬		
ほうき	27年	2,778	65	66	62	71	兵庫	44%
	28年	2,296	85	79	78	108	茨城	26%
	29年	2,318	112	99	125	112	愛知	19%
	30年	2,527	179	174	182	191	三重	7%
	31年	2,712	48	50	49	45	宮崎	3%
	5ヵ年平均	2,526	96	93	98	104	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	2,500	80	80	80	80		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>兵庫、茨城、愛知などから入荷する。茨城は昨秋の台風被害の影響が残るものの、各産地からの入荷は概ね平年並となるか。生育は前進傾向で、中旬以降は数量がやや減少する見通し。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
	さい							
	さいい							
キヤベツ	27年	3,519	91	91	95	96	愛知	91%
	28年	3,864	62	62	67	63	滋賀	3%
	29年	3,259	122	131	127	114	茨城	2%
	30年	2,376	239	236	258	226	兵庫	2%
	31年	3,250	76	94	71	67	三重	1%
	5ヵ年平均	3,254	109	114	114	105	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	3,000	70	70	70	70		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知主体の入荷となる。愛知は小玉傾向が改善され、作柄も平年並。2月は順調で安定した入荷を見込む。販売面では暖冬の影響で消費が鈍く、売れ行きは良くない。今後も安値傾向が続くとみられる。</p> <p>入荷量と価格はともに前年をかなり下回る見込み。</p>					
	さい							
	さいい							
ほうれんそう	27年	324	551	561	587	544	愛知	62%
	28年	294	581	616	583	577	茨城	18%
	29年	399	479	524	501	417	岐阜	5%
	30年	290	677	862	701	530	徳島	5%
	31年	344	455	541	428	403	群馬	3%
	5ヵ年平均	330	541	611	552	487	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	350	400	450	400	350		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に茨城などからも入荷する。愛知は秋の長雨により蒔き直した分が順調に入荷されており、2月も引き続き順調な入荷が続く見込み。他産地も同様に順調な見通しで、価格は上がらないか。</p> <p>入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
	さい							
	さいい							

東京都中央卸売市場

1月31日現在

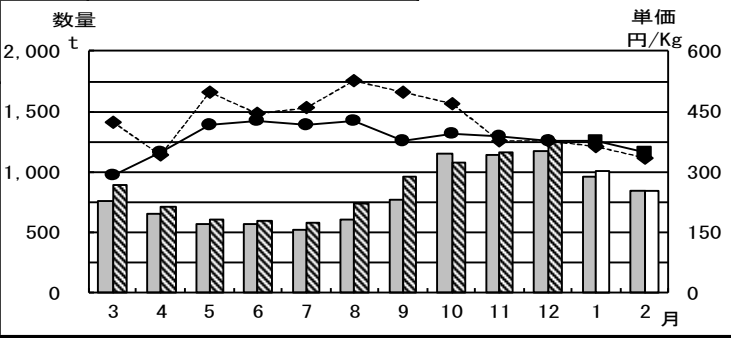
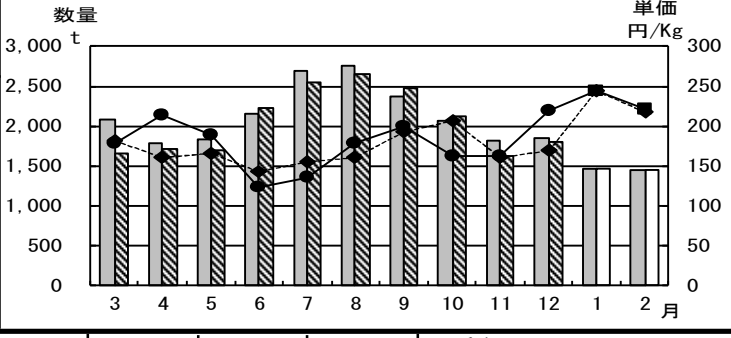
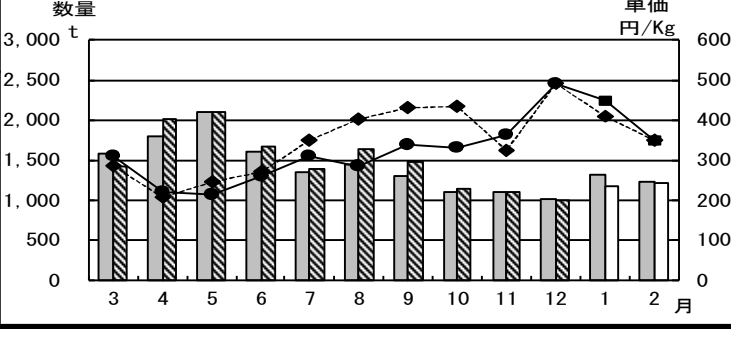
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	27年	11,930	49	53	45	48	茨城 71%
	28年	11,091	61	57	50	83	群馬 14%
	29年	11,287	99	87	111	103	兵庫 9%
	30年	12,466	164	161	156	184	埼玉 2%
	31年	12,476	38	42	41	29	愛知 2%
	5ヵ年平均	11,850	83	81	81	90	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	11,500	70	60	70	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、群馬からの入荷が中心となる。昨秋の台風による大雨の影響を受けており、作付け減、根張りの不良、病害虫などの懸念が残る。不作気味だが、鍋需要が伸びず不足感はない。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値となった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
		<p>数量 (トン) と単価 (円/kg) の推移グラフ。数量は3月～10月まで増加傾向にあり、11月～12月に減少、1月～2月に再び増加。単価は3月～5月に高値を記録し、その後徐々に低下し、11月～12月に急激に上昇、1月～2月に再び低下傾向にある。</p>					
キャベツ	27年	14,711	94	96	94	92	愛知 56%
	28年	15,890	67	67	68	66	千葉 26%
	29年	13,889	129	128	129	130	神奈川 14%
	30年	11,828	252	224	266	280	茨城 2%
	31年	15,497	80	100	74	68	静岡 1%
	5ヵ年平均	14,363	118	118	119	119	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	15,000	70	70	70	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、千葉、神奈川からの入荷が中心となる。暖かさを伴った定期的な雨により玉肥大が早く、3週間程度前進化している。一時期の裂球は落ち着き、潤沢な出回りが予想される。 入荷量は前年をやや下回り、価格は安値だった前年をかなり下回る見込み。</p>					
		<p>数量 (トン) と単価 (円/kg) の推移グラフ。数量は3月～10月まで増加傾向にあり、11月～12月に減少、1月～2月に再び増加。単価は3月～5月に高値を記録し、その後徐々に低下し、11月～12月に急激に上昇、1月～2月に再び低下傾向にある。</p>					
ほうれんそう	27年	1,688	477	462	503	467	茨城 33%
	28年	1,380	534	634	479	481	群馬 31%
	29年	1,718	408	424	419	373	埼玉 14%
	30年	1,353	625	755	596	505	千葉 13%
	31年	1,520	422	505	410	355	栃木 3%
	5ヵ年平均	1,532	487	545	478	433	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,550	480	480	480	480	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、茨城など関東産地からの入荷が中心となる。台風後の植え直しの作型が順調に生育しており、産地によっては多品目からの転換で作付けも増えたことから潤沢な入荷が見込まれる。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
		<p>数量 (トン) と単価 (円/kg) の推移グラフ。数量は3月～10月まで増加傾向にあり、11月～12月に減少、1月～2月に再び増加。単価は3月～5月に高値を記録し、その後徐々に低下し、11月～12月に急激に上昇、1月～2月に再び低下傾向にある。</p>					

名古屋市中央卸売市場

1月16日現在

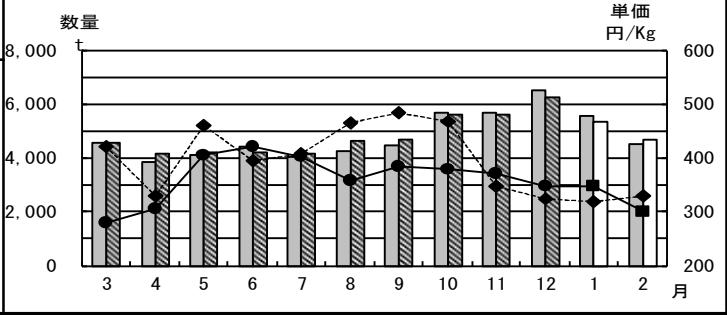
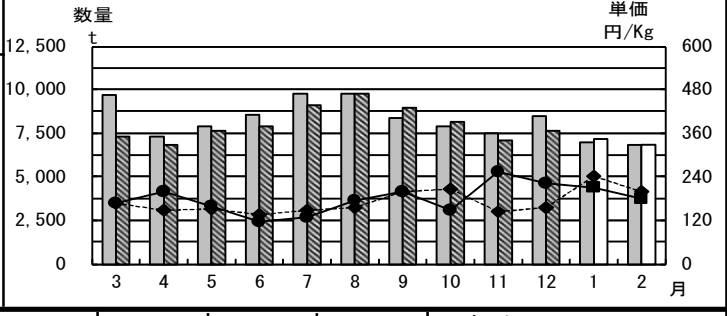
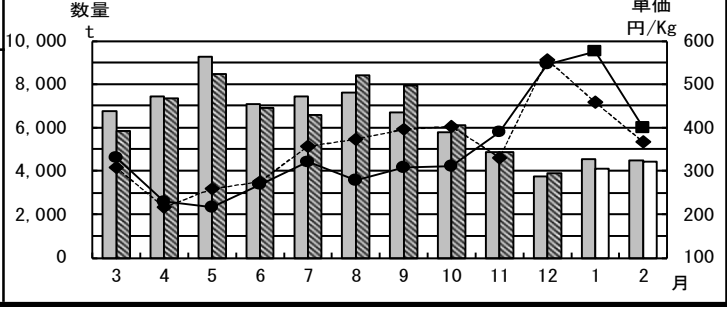
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	27年	944	341	343	346	348	大分 29%
	28年	903	392	405	374	420	静岡 15%
	29年	755	442	407	476	460	愛知 10%
	30年	709	528	516	550	531	群馬 8%
	31年	846	334	338	342	323	鹿児島 7%
	5ヵ年平均	831	401	397	410	410	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	850	350	350	350	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>大分、静岡、愛知、群馬などの各産地から入荷する。全国的に生育良好な産地が多く、太物傾向。大分や静岡の白ねぎ、愛知の越津ねぎとともに、2月いっぱいには順調な入荷が続くとみられる。 入荷量は前年並で、価格は安値だった前年をやや上回る見込み。</p>							
しそ	27年	1,620	285	275	295	286	兵庫 31%
	28年	1,274	326	318	347	312	静岡 16%
	29年	1,445	241	263	241	222	茨城 14%
	30年	1,210	376	413	373	333	愛知 12%
	31年	1,437	217	246	217	190	熊本 12%
	5ヵ年平均	1,397	285	298	291	266	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,450	220	240	220	200	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>兵庫を中心に静岡、愛知などから入荷する。各産地ともに生育順調で、暖冬のため前進傾向にある。このため2月上中旬は平年を上回る入荷量が予想される。価格は前年同様の安値傾向となる見通し。 入荷量と価格はともに前年並の見込み。</p>							
きゅうり	27年	1,152	365	424	358	325	愛知 61%
	28年	1,158	412	491	387	366	宮崎 15%
	29年	1,180	304	328	302	278	高知 14%
	30年	1,313	340	407	309	296	鹿児島 10%
	31年	1,230	350	372	337	340	群馬 1%
	5ヵ年平均	1,207	354	404	338	320	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,220	350	370	350	330	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>愛知を中心に宮崎、高知、鹿児島 of 西南暖地から入荷する。各産地ともに平年並の入荷を見込むが、曇雨天が続く場合は入荷減も予想される。1月下旬からの節分需要は以前に比べて小さくなっている。 入荷量と価格はともに前年並の見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

1月31日現在

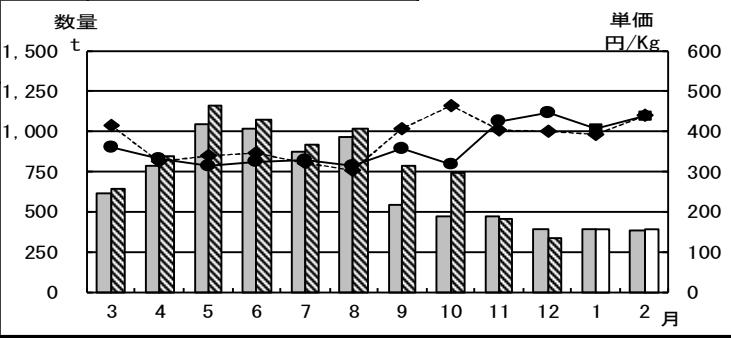
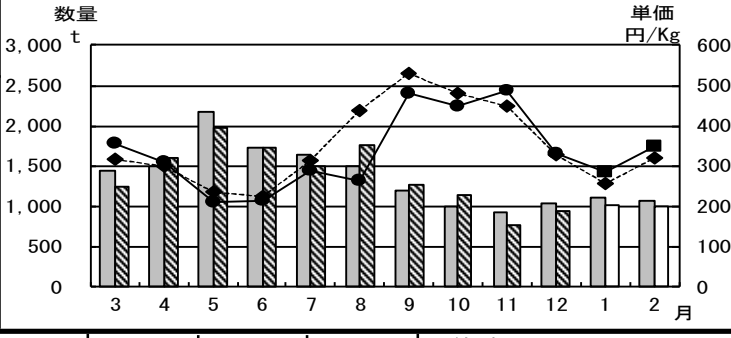
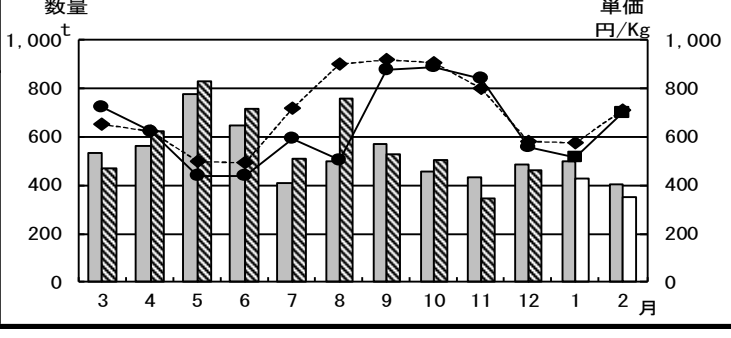
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
ねぎ	27年	5,053	293	281	321	千葉	40%	
	28年	5,136	331	321	336	埼玉	21%	
	29年	4,456	371	339	398	茨城	12%	
	30年	4,248	479	467	464	群馬	8%	
	31年	4,544	330	331	349	栃木	5%	
	5ヵ年平均	4,687	357	347	358	前年及び本年の 入荷量・価格の動き		
	2年見通し	4,700	300	310	280			
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉県、埼玉県など関東産地からの入荷が中心となる。台風の湿害で遅れていた生育は年内の気温が高く推移したことで回復し、太物比率も高い。豊作基調の産地が多い。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p> 						
<p>静岡、埼玉など関東産地からの入荷が中心となる。台風の湿害で遅れていた生育は年内の気温が高く推移したことで回復し、太物比率も高い。豊作基調の産地が多い。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>								
し	27年	6,470	282	279	295	271	静岡	28%
	28年	6,289	310	306	329	294	香川	17%
	29年	6,870	231	248	231	212	茨城	17%
	30年	5,475	362	393	368	314	長崎	7%
	31年	6,854	200	228	198	173	福岡	7%
	5ヵ年平均	6,392	273	286	280	271	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	6,800	180	190	180	170		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>静岡、茨城などを中心に入荷する。暖冬傾向により生育や収穫が前進化した産地が多く、ここまで前倒しで出荷が進んでいたことから、2月の入荷は落ち着くものと見込まれる。入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p> 						
<p>静岡、茨城などを中心に入荷する。暖冬傾向により生育や収穫が前進化した産地が多く、ここまで前倒しで出荷が進んでいたことから、2月の入荷は落ち着くものと見込まれる。入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>								
きゅう	27年	4,701	402	465	384	356	宮崎	30%
	28年	4,986	446	526	409	404	千葉	18%
	29年	5,040	316	341	315	286	群馬	17%
	30年	5,004	366	425	346	312	高知	13%
	31年	4,451	367	379	367	355	茨城	11%
	5ヵ年平均	4,836	379	428	364	342	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	4,400	400	550	350	300		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>宮崎、千葉、群馬、高知からの入荷が中心となる。前年と対照的に日照量の少ない産地が多く、数量が出ずに価格は上昇している。入荷は月後半に向けて安定し、高値疲れも加わり価格は下がる方向か。入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり上回る見込み。</p> 						
<p>宮崎、千葉、群馬、高知からの入荷が中心となる。前年と対照的に日照量の少ない産地が多く、数量が出ずに価格は上昇している。入荷は月後半に向けて安定し、高値疲れも加わり価格は下がる方向か。入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>								

名古屋市中央卸売市場

1月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	27年	406	437	451	448	417	熊本 50%
	28年	424	485	575	464	441	愛知 44%
	29年	392	419	424	421	410	高知 6%
	30年	412	437	439	435	439	
	31年	390	439	445	448	430	
	5ヵ年平均	405	444	468	443	428	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	400	440	440	440	440	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、熊本を中心に入荷する。ここ数年の2月は安定した入荷量の年が続く。本年も両産地ともに平年並の数量を見込むが、成り疲れもあるため、曇雨天が続いた場合はやや少なめの入荷となるか。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年並となる見込み。</p>					
ト マ ト	27年	856	447	402	450	493	熊本 50%
	28年	978	437	519	395	403	愛知 26%
	29年	950	372	391	374	350	三重 12%
	30年	972	336	311	352	355	岐阜 10%
	31年	1,066	320	298	319	349	高知 1%
	5ヵ年平均	964	380	382	375	387	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,000	350	350	350	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知、三重、岐阜を中心に入荷する。各産地ともに数量は落ち着くが、安定した入荷を見込む。価格は前年を上回るものの、需要の低い時期に加え、ミニトマトの人気もあり、販売には苦戦するか。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	27年	301	847	793	868	872	熊本 59%
	28年	332	932	945	913	937	愛知 29%
	29年	335	793	814	798	780	宮崎 7%
	30年	374	745	759	738	736	和歌山 5%
	31年	405	711	684	708	749	
	5ヵ年平均	350	799	793	798	809	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	350	700	650	700	750	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知を中心に入荷する。熊本は曇天もあり、前年よりやや少ないか。愛知も12月の出荷が多く、成り疲れの影響から若干少ない見込み。増量していた過去2年に比べると少ない入荷が予想される。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並となる見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

1月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	27年	1,937	499	559	504	443	高知 64%
	28年	2,250	488	554	456	463	福岡 15%
	29年	2,114	466	459	465	475	熊本 10%
	30年	1,904	513	503	506	540	佐賀 3%
	31年	1,918	492	520	493	469	栃木 3%
	5ヵ年平均	2,025	491	519	483	477	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	2,000	500	500	500		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>高知からの入荷が中心となる。高知では12月に曇雨天が多く、生育が遅れて数量が減少した。1月の天候は回復しており、今後は増量が見込まれる。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並となる見込み。</p>					
ト マ ト	27年	4,708	470	424	485	506	熊本 33%
	28年	5,387	474	553	438	433	栃木 24%
	29年	5,447	404	433	406	370	愛知 13%
	30年	4,972	378	359	392	387	千葉 5%
	31年	4,989	377	360	376	394	静岡 4%
	5ヵ年平均	5,101	421	428	419	416	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	5,000	380	360	390	390	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、栃木、愛知からの入荷が中心となる。各産地ともに日照不足等の懸念材料があるものの、概ね生育は順調、一部は段数が上がり小玉傾向となる。愛知は3月半ば頃までは出荷量の大きな変動もなく、安定した入荷が見込まれる。 入荷量と価格はともに前年並の見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	27年	1,161	845	791	881	865	熊本 47%
	28年	1,339	951	1,007	911	932	愛知 19%
	29年	1,433	715	742	702	695	宮崎 10%
	30年	1,486	701	716	696	683	千葉 7%
	31年	1,507	689	661	675	736	静岡 6%
	5ヵ年平均	1,385	774	778	765	776	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,350	750	800	750	700	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知などからの入荷となる。元々少ない時期に加えて、成り疲れや曇雨天の影響もあり入荷量は少ない状態。後半からは回復が見込まれるが、極端な入荷増とはならないか。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

1月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	27年	405	719	724	727	710	鹿児島 56% 宮崎 32% 高知 12%
	28年	380	768	825	787	703	
	29年	442	575	604	602	528	
	30年	382	737	757	742	677	
	31年	367	669	689	671	637	
	5ヵ年平均	395	690	716	703	648	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	370	680	700	690	650	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>鹿児島、宮崎、高知からほぼ全量を入荷する。1月前半は平年に比べて少ない入荷となった。各産地とも平年作の作柄だが、大きな増量はなく、曇雨天が続いた場合は2月も平年より少なめの入荷となるか。入荷量と価格はともに前年並の見込み。</p>					
ばれいしょ	27年	3,120	130	120	129	137	鹿児島 52% 北海道 41% 長崎 7%
	28年	3,040	189	177	206	181	
	29年	2,676	238	225	250	243	
	30年	2,547	144	136	151	148	
	31年	2,501	118	117	115	119	
	5ヵ年平均	2,777	164	155	171	166	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	2,800	110	110	110	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、鹿児島を中心に長崎からも入荷する。北海道の残量は多く、前年を上回る入荷を見込む。鹿児島は大玉傾向で、1月下旬から離島産の出荷が始まる。長崎は遅れ気味で、2月の残量は多くなるか。入荷量は前年をかなり上回り、価格は安値だった前年よりもかなり下回る見込み。</p>					
たまねぎ	27年	4,999	102	101	103	108	北海道 89% 静岡 8% 愛知 1% アメリカ 1%
	28年	6,413	85	82	91	89	
	29年	6,218	87	86	93	84	
	30年	5,519	104	102	102	115	
	31年	6,239	129	126	136	124	
	5ヵ年平均	5,877	101	99	105	103	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	6,200	85	85	85	85	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道中心の入荷となる。北海道は前年並の入荷量を見込むが、在庫は前年よりも多く、引き続き安値が予想される。静岡の新物も暖冬傾向から生育良好で、前年並の潤沢な入荷を見込む。入荷量は前年並で、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

1月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	27年	1,295	730	751	730	704	宮崎 48%
	28年	1,324	799	881	812	703	高知 20%
	29年	1,516	595	626	616	542	茨城 17%
	30年	1,358	757	802	768	672	鹿児島 15%
	31年	1,442	696	727	709	651	
	5ヵ年平均	1,387	712	753	724	651	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,400	700	710	710	680	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>宮崎などの西南暖地と茨城からの入荷が中心となる。各産地とも曇雨天の影響で出荷が鈍っている。天候の回復とともに数量は回復すると見込まれるが、日照が少ないと増加速度は落ちるとみられる。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並となる見込み。</p>					
白菜	27年	8,251	115	107	114	127	北海道 49%
	28年	6,945	182	178	181	188	鹿児島 40%
	29年	6,604	227	224	231	226	長崎 11%
	30年	7,410	129	128	134	122	
	31年	7,422	106	110	104	104	
	5ヵ年平均	7,326	149	146	150	151	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	7,400	90	90	90	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、鹿児島、長崎からの入荷がほとんどを占める。終了する長崎に代わり鹿児島からの入荷が本格化する。北海道は十分な貯蔵量があり、今後は販売の苦戦も予想される。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
たまねぎ	27年	10,546	112	110	111	117	北海道 76%
	28年	11,034	98	93	101	99	静岡 17%
	29年	11,722	104	100	103	110	中国 4%
	30年	10,294	121	118	124	122	
	31年	9,062	154	154	163	145	
	5ヵ年平均	10,532	116	113	119	117	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	10,200	95	105	95	85	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道中心に静岡、長崎から入荷する。各産地とも豊作基調となっている。静岡、長崎は暖冬の影響で生育が前進しており、北海道の貯蔵量も多いため、入荷量は増加すると見込まれる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

1月17日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	27年	8,543	383	370	392	385	青森 23%
	28年	7,698	422	409	424	440	静岡 14%
	29年	7,821	400	379	396	435	愛媛 13%
	30年	7,115	431	422	432	419	フィリピン 12%
	31年	7,715	423	401	411	443	愛知 11%
	5カ年平均	7,779	411	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	6,700	430	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	いちご、りんご、みかんなどが主な品目となる。みかんは元々入荷減の予想だが、静岡が雹害で早めに出荷しており、2月の数量はかなり少ないか。りんごも在庫量が少なく、全体の入荷量は平年を下回る。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並となる見込み。						
りんご	27年	1,932	302	303	301	304	青森 96%
	28年	1,876	322	326	321	326	秋田 2%
	29年	1,522	308	321	297	299	長野 1%
	30年	1,476	325	319	329	331	
	31年	1,843	285	286	292	279	
	5カ年平均	1,730	308	310	307	307	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,500	310	310	310	310	
りんご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	青森が主産地となる。青森は天候不順等の影響から収量が少ない一方、年内の輸出が多かった。このため若干高値傾向で、在庫の少ない状況となっている。果実は中小玉が多く、下級品が目立つ産地もある。入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。						
いちご	27年	849	1,332	1,412	1,366	1,229	愛知 57%
	28年	683	1,465	1,522	1,416	1,448	熊本 23%
	29年	825	1,234	1,360	1,225	1,125	鹿児島 6%
	30年	785	1,292	1,437	1,278	1,138	佐賀 6%
	31年	720	1,533	1,507	1,539	1,567	岐阜 2%
	5カ年平均	772	1,364	1,443	1,359	1,290	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	780	1,300	1,400	1,300	1,200	
いちご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知、熊本を中心に、鹿児島などからも入荷する。全体的に遅れており、1月前半は入荷が少なく、高値が続く市況だった。2月は上旬に2番果のピークを迎え、価格も落ち着いてくるか。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						

東京都中央卸売市場

1月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	27年	36,226	410	457	385	405	青森 20%
	28年	33,594	461	452	470	465	静岡 17%
	29年	36,884	438	425	448	446	愛媛 16%
	30年	32,174	489	475	503	494	和歌山 6%
	31年	33,065	483	464	486	506	栃木 6%
	5ヵ年平均	34,389	455	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	32,000	480	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	りんご、みかん、いちごを中心に入荷。晩柑類も本格化する。みかんは主力である静岡産が減少し、りんごも貯蔵量が少ない状態。いちごも伸び悩んでおり、果物全般で数量は少ない見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並となる見込み。						
り	27年	7,237	282	270	278	277	青森 97%
	28年	7,365	304	295	306	311	秋田 1%
	29年	6,713	284	292	283	273	
	30年	6,403	305	300	308	310	
	31年	6,610	277	280	280	272	
	5ヵ年平均	6,866	290	287	291	289	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	6,000	280	280	280	280	
りんご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	青森の貯蔵品を中心に入荷する。全体的に夏期の高温・干ばつ等の影響で入荷量が少なく、小玉傾向。ふじは果実肥大にばらつきがみられる。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並となる見込み。						
いちご	27年	3,948	1,402	1,481	1,279	1,388	栃木 47%
	28年	3,813	1,445	1,568	1,414	1,347	福岡 16%
	29年	4,850	1,260	1,319	1,259	1,193	茨城 10%
	30年	4,624	1,337	1,388	1,336	1,270	静岡 8%
	31年	4,112	1,513	1,489	1,521	1,530	佐賀 8%
	5ヵ年平均	4,269	1,385	1,441	1,358	1,338	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	3,900	1,590	1,610	1,590	1,570	
いちご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	栃木を中心に福岡、茨城などから入荷する。栃木と茨城では12～1月の日照不足等で生育が遅れたり、果実肥大が鈍っているが、下旬にはピークに入るか。ただし、前年ほどの数量はないと見込まれる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。						

切花・鉢花の2月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 1月31日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	27年	1,365	60	
		28年	1,709	54	
		29年	1,324	49	
		30年	1,676	45	
		31年	1,494	54	
	5ヶ年平均		1,514	52	
	2年見通し		1,500	50	
概要	<p>愛知中心に入荷する。沖縄からは色物中心の入荷になるが、輪ぎく以外のマムに生産移行している部分もあり、入荷の山は低いとみられる。愛知産の白系に関して、初めの週くらいまでは数量もあるが、中旬以降は数量も落ち着く見込み。</p>				
小 ぎ	実績	27年	1,136	38	
		28年	1,134	39	
		29年	868	30	
		30年	912	37	
		31年	955	31	
	5ヶ年平均		1,001	35	
	2年見通し		900	35	
概要	<p>沖縄中心の入荷となる。前年よりも作付計画は減っているが、例年と比べても暖かい日が続いており、出荷の切れ目はないか。</p>				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	27年	873	46	
		28年	914	48	
		29年	843	34	
		30年	929	43	
		31年	1,053	36	
	5ヶ年平均		922	41	
	2年見通し		1,000	36	
概要	<p>愛知中心に和歌山、長野から入荷する。年明けをしたにもかかわらず、暖かい気候が続く、1月の出荷量は多かった割には例年のような大きなピークもなく推移している。2月もダラダラとした安定出荷が続くと予想される。品質は冬の作柄で1番いい時期に入る。</p>				
か す み	実績	27年	199	68	
		28年	197	71	
		29年	180	59	
		30年	167	86	
		31年	166	66	
	5ヶ年平均		182	70	
	2年見通し		170	65	
概要	<p>高知、和歌山、熊本からの入荷となる。暖冬の影響から2～3週間ほど前進している。3月出荷予定分が2月中下旬にずれ込むことが予想され、下旬は販売に苦戦する見込み。</p>				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆ り	実績	27年	225	207	
		28年	281	175	
		29年	230	164	
		30年	224	199	
		31年	235	162	
	5ヶ年平均		239	181	
	2年見通し		230	175	
概要	<p>オリエンタルは高知、宮崎、埼玉、愛知から入荷する。作付けからして出荷量は多くなく、ダラダラとした出荷となる見込み。鉄砲は永良部産の彼岸用が前進し、販売に苦戦しそう。LAは少ない入荷となる。</p>				
洋 ら ん	実績	27年	444	77	
		28年	453	82	
		29年	350	80	
		30年	364	96	
		31年	390	77	
	5ヶ年平均		400	82	
	2年見通し		400	75	
概要	<p>高知、徳島、愛知、鹿児島や輸入品が入荷する。胡蝶蘭は例年に比べ少なく、引合いが強かったが、少しずつ増加する見込み。カトレアも例年に比べ遅れが出ていたが、順次増加し、タイ産のデンファレも旧正月需要が終わって一段と増加する。</p>				
ば ら	実績	27年	610	87	
		28年	657	83	
		29年	558	75	
		30年	654	83	
		31年	422	102	
	5ヶ年平均		580	85	
	2年見通し		450	90	
概要	<p>愛知、三重を中心に入荷する。産地の高齢化や世代交代、一部の商社での日本向けばらの入荷減などにより数量減となる。バレンタインの引き合いが強まれば、上旬は堅調な販売が見込める。</p>				
枝 も の	実績	27年	1,732	42	
		28年	1,656	44	
		29年	1,437	43	
		30年	1,519	49	
		31年	1,543	47	
	5ヶ年平均		1,577	45	
	2年見通し		1,500	47	
概要	<p>花桃の出荷が本格的に始まるが、静岡産は2割ほど減少する見込み。ミモザの出荷も暖冬の影響により前進傾向となる。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
エ リ	実 績	27年	11,000	211	
		28年	10,881	209	
		29年	7,391	184	
		30年	5,581	194	
		31年	7,271	190	
	5ヶ年平均		8,425	200	
	2年見通し		6,500	192	
カ	概要	入荷量は前年よりかなり減少するか。3～4号の小鉢中心の入荷となる。寒さの影響により高値は望めず、価格は例年よりやや安値で推移する見込み。 前年2月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位新潟（56.0%）、2位静岡（26.0%）、3位長野（9.0%）となっている。			
プ ム	実 績	27年	252,352	84	
		28年	208,852	102	
		29年	251,311	85	
		30年	223,289	84	
		31年	194,405	91	
	5ヶ年平均		226,042	89	
	2年見通し		194,000	91	
ラ	概要	入荷量は前年並か。価格も前年と同程度と予想されるが、流れを作るため新品種に期待したい。 前年2月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（43.3%）、2位埼玉（14.4%）、3位三重（7.2%）となっている。			
チ ユ ー リ ッ プ	実 績	27年	40,200	201	
		28年	37,189	200	
		29年	28,077	180	
		30年	29,409	146	
		31年	21,481	169	
	5ヶ年平均		31,271	182	
	2年見通し		20,000	175	
概要	入荷量は前年よりかなり減少するか。主要生産者が作付けを減らしている影響とみられる。関東は4～5号、愛知は4号サイズが中心で、その他のサイズは年々減少している。ピンク、黄色の引き合いが強く、価格は入荷量の減少に伴い安定すると予想される。 前年2月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（27.3%）、2位埼玉（22.7%）、3位茨城（21.0%）となっている。				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
サイネリア	実績	27年	62,598	240	
		28年	74,095	249	
		29年	60,599	229	
		30年	58,896	229	
		31年	49,984	267	
		5ヶ年平均	61,234	242	
	2年見通し	50,000	260		
概要	<p>入荷量は前年並か。4号鉢は卒業・卒園の近づく2月下旬ごろから需要が高まるため、市況とともに高くなる見込み。5号・6号サイズは関東を中心に、4号同様月末に向けて生産量も多くなるが、市況は厳しいと予想される。</p> <p>前年2月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(24.2%)、2位香川(14.2%)、3位愛知(13.9%)となっている。</p>				
マーガレット	実績	27年	63,089	164	
		28年	58,597	185	
		29年	47,725	170	
		30年	51,402	172	
		31年	51,910	202	
		5ヶ年平均	54,545	179	
	2年見通し	51,000	204		
概要	<p>入荷量は前年並か。天候により出荷時期が前後することがあり、3月出荷分が前倒しになり増加する可能性もある。価格面では3号ポット仕立てから4号中心に引き合いが安定しており、注文を含めて例年よりかなり高値となる見込み。</p> <p>前年2月の主要県の集荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(34.4%)、2位岐阜(21.7%)、3位静岡(20.4%)となっている。</p>				
デンドロビウム	実績	27年	31,288	881	
		28年	32,626	811	
		29年	25,502	712	
		30年	24,597	653	
		31年	23,326	593	
		5ヶ年平均	27,468	743	
	2年見通し	22,000	591		
概要	<p>入荷量は前年よりかなり減少するか。相場の低迷により生産者が減り、作付けも減少している。特に6号以上の大鉢はかなり少ない。2月は気温が低くても固めの出荷をお願いしたい。また、出荷形態はミックスが好まれる傾向にある。</p> <p>前年2月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(46.0%)、2位高知(16.0%)、3位福岡(9.1%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.560
令和2年2月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434